

第28回 KELES セミナー

2013年2月3日(日)

天理大学・杣之内キャンパス 2号棟 22A 教室

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

<http://www.tenri-u.ac.jp/info/dv457k000000hjm.html>

12:40-17:40 (12:00 受付開始)

プログラム

テーマ：「英語を英語で教えること」

	12:40-13:00	開会のことば
①	13:00-13:40	実践発表 I. 英語で授業—中学校の場合— 谷口 紘子 先生 (橿原市立八木中学校)
	13:50-15:20	II. 英語で授業—文科省プロジェクトとこれからの高校授業 を考える— 中永 利法 先生 (奈良県立桜井高校) 中井 英民 先生 (天理大学) 佐藤 臨太郎 先生 (奈良教育大)
②	15:30-16:20	ワークショップ The Impact of Phonics on Pre-teen ESL Learners Matthew Reynolds 先生 (English Please)
③	16:30-17:40	英語で行う授業をめざして：インプットとアウトプットを つなぐシャドーイング 門田 修平 先生 (関西学院大学大学院・教授)
	17:40-18:40	Tea Party ※ご自由に、気楽にご参加下さい。

要事前登録 学会ウェブサイトの参加申込フォーム：<http://www.keles.jp/>

参加費 会員・非会員とも無料

お問合せ 事務局 神戸大学 横川博一研究室 yokokawa@kobe-u.ac.jp

テーマの解説

英語教育の改善を求める文部科学省の姿勢は、高校学習指導要領の公布と共に示された、「英語授業活動は基本的に英語で実施すること」という異例の指導方針に象徴されています。

本セミナーでは、英語教育改革の流れを受けとめ、小学校から大学にいたるまでのこれからの英語教育のあり方、特に「英語を多用した授業形態」を模索することをテーマとしました。「英語を英語で教えること」という統一テーマのもと、中学・高校での英語を多用した授業に関する実践報告、小学校の授業を中心に求められるフォニックスの指導についてのワークショップ、そして講演会では英語で授業を展開する素地を培うシャドーイングについての講演会を準備しました。特に高校の授業改革に関しては、文部科学省主導による授業改革を目的とした研究校に指定された奈良県立桜井高校の実践を、実施者である先生と助言者である大学の教員による共同発表を企画しました。また講演会では、シャドーイングの効果と指導法に造詣の深い、また日本の心理言語学、応用言語学を代表する研究者でおられる、関西学院大学大学院の門田修平先生にご講演をお願いしました。

もちろん、授業のすべてを英語でおこなうべきかどうかには様々な意見もあります。そこで本セミナーでは、「英語を英語で教えること」についてクリティカルに検証もしていきたいと思っています。

寒さ厳しい2月に実施しますセミナーですが、英語教育に熱意をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

講演・ワークショップ 講師紹介・概要



門田 修平

関西学院大学大学院・教授

専門は心理言語学、応用言語学。第二言語としての英語が、どのようにして知覚・処理され、記憶・学習されるかそのメカニズムについて研究している。ことばの科学会、JACETリーディング研究会、LET基礎理論研究部会を中心に活動。趣味は、食べて、飲んで、唄うこと。それと旅行。カラオケの選曲は多種多様。

主な著書：『英語リーディングの認知メカニズム』（共編著：くろしお出版）、『英語のメンタルレキシコン』（編著：松柏社）、『決定版 英語シャドーイング』（共著：コスモピア）、『第二言語理解の認知メカニズム』（くろしお出版）、『シャドーイングと音読の科学』（コスモピア）、『SLA 研究入門』（くろしお出版）、『シャドーイング・音読と英語習得の科学』（コスモピア）、『話せる！英語シャドーイング』（監修・共著：コスモピア）、『英語音読指導ハンドブック』（共編著：大修館書店）など。

【講演概要】英語で授業を行う意味は、学習者のインプット・アウトプット活動の機会を増やし、英語を「知っている（顕在記憶）」から「できる（潜在記憶）」状態に変貌させることに主眼があると考えます。しかしながら、インプットをアウトプットに結びつけるには、その中途に音声言語をターゲットにした豊富な反復練習（反復プライミング）が必須になります。音読（oral reading）と並んで、このトレーニング効果が大きいと期待できるシャドーイング（shadowing）を取り上げ、その効果について具体的にお話したいと思います。



Matthew Reynolds

English Please, Nara JALT

Matthew Reynolds is the Director of Studies and owner of English-Please! Natural English Language School and EP! Kids Kodomo Eikaiwa English schools. He started his career teaching in Japan in 1997 as part of the Japan Exchange & Teaching program and before becoming a school owner worked at universities, high schools, businesses and language schools throughout the Kansai area. Matthew is an active member of JALT (the Japan Association of Language Teachers) and an Examinations Manager for the University of Cambridge ESOL Examinations board.

【Abstract】 *The impact of phonics on pre-teen ESL learners.* Matthew will be explaining the benefits of having a fun, engaging Phonics program as part of your Elementary School or Junior High School English program. These benefits include, but are not limited to, improvements in spelling, reading confidence, reading speed, pronunciation, penmanship & overall vocabulary levels. The talk will include descriptions of phonics games children love that can be adapted for use with any class size.

